名古屋市立大学
NAGOYA CITY UNIVERSITY

大学ICT推進協議会 2021年度 年次大会 企画セッションWA1
『大学のDXはどこまで進むのか？文科省PlusDX採択大学・企業の取り組み』

NCU LX・DX

（学生の学習意欲に寄り添う DATA Driven LXシステム構築計画）

2021年12月15日 9:15-9:30

名古屋市立大学 高等教育院
山田　勉

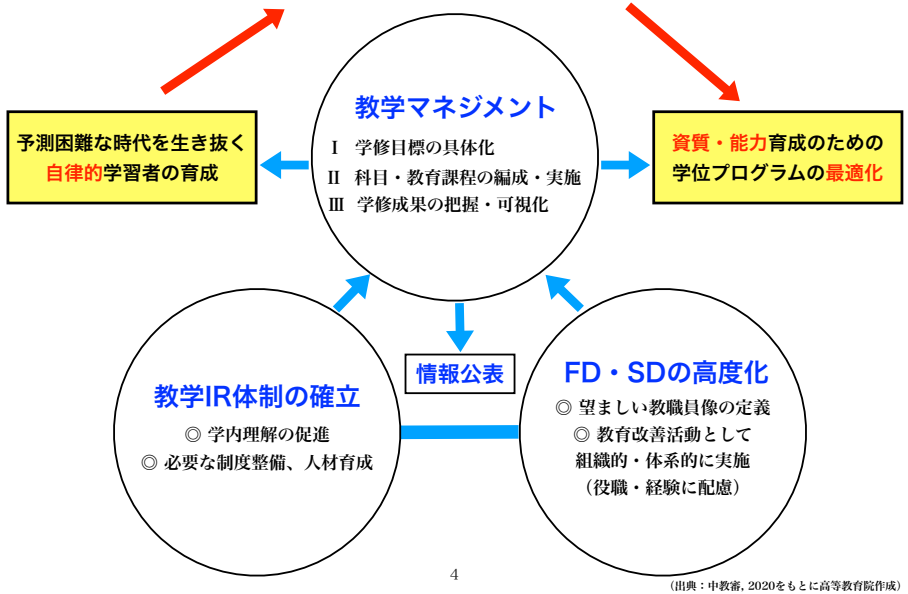
目次

1. NCU LX・DXで何を実現するか
   DXプラットフォーム と 教学IR・Learning Analytics
2. 資質・能力と自己調整学習
   内発的動機づけ・自己効力感を軸とするメタ認知
3. 自己評価・成長実感アンケート
   分析・可視化と学生・教員へのフィードバック

目次

1. NCU LX・DXで何を実現するか
   DXプラットフォーム と 教学IR・Learning Analytics
2. 資質・能力と自己調整学習
   内発的動機づけ・自己効力感を軸とするメタ認知
3. 自己評価・成長実感アンケート
   分析・可視化と学生・教員へのフィードバック

【学修者本意の教育の実現】



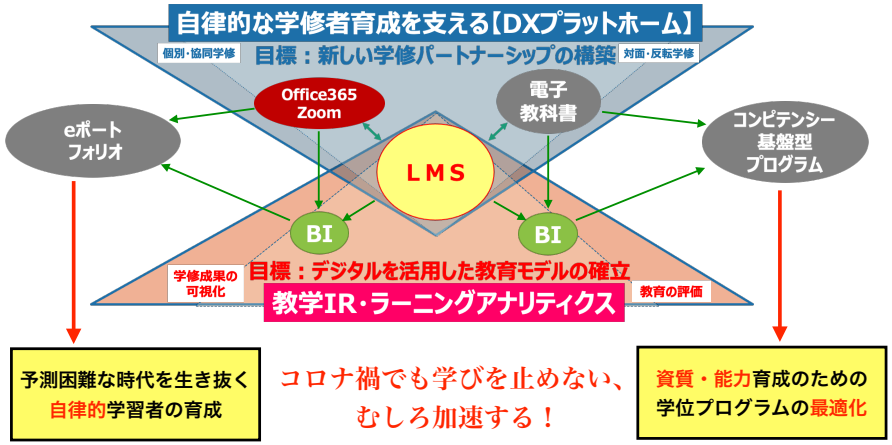
（出典：中教審，2020をもとに高等教育院作成）

名古屋市立大学

NCU LX・DX

学生の学修意欲に寄り添うDATA driven LXシステム

(NCU Plan to build data-driven support for Learner Experience through Digital Transformation)



名古屋市立大学

目次

1 NCU LX・DXで何を実現するか
DXプラットフォーム と 教学IR・Learning Analytics

2 資質・能力と自己調整学習
内発的動機づけ・自己効力感を軸とするメタ認知

3 自己評価・成長実感アンケート
分析・可視化と学生・教員へのフィードバック

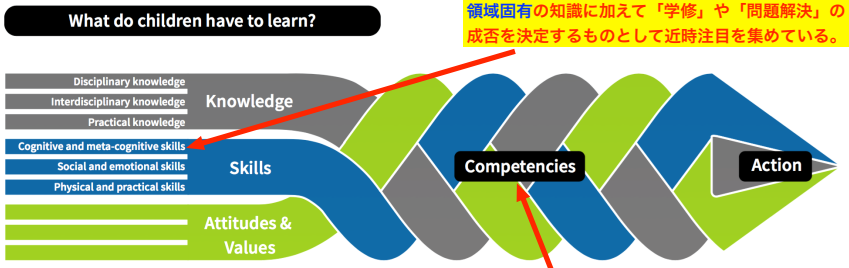
名古屋市立大学

資質・能力－コンピテンシーと呼ばれる新しい能力

（求められているのは…）

OECD Education 2030 Framework

自律的な学修者が持つ、巧みな自己調整能力は、領域固有の知識に加えて「学修」や「問題解決」の成否を決定するものとして近時注目を集めている。



(OECD, 2016)

- 日本では、初等・中等教育と高等教育（AP）を結ぶ目標
- ただし日本の「資質・能力の三つの柱 」は、「知識・技能」「思考力・判断力・表現力等」「学びに向かう力・人間性等」。
- また、高次の認知的目標は、領域固有の専門的知識を基盤に成立していることに要注意。

コンピテンシー基盤型プログラムが必要。

自己調整の下位過程

（動機づけの領域）

自己調整の段階	自己調整学習者の種類	
	素朴な（naive）学習者	巧みな（skillful）学習者
事前の考慮	明細でなく遠くにある目標、成績目標志向、低い自己効力感、興味が無い	明細で階層的な目標、学習目標志向、高い自己効力感、内発的に興味を持っている
目標遂行／意思的統制	焦点化されていない計画、セルフ・ハンディキャピング方略、結果の自己モニタリング	目標遂行に焦点化されている、自己教示やイメージ、過程の自己モニタリング
自己反省	自己評価を避ける、能力への帰属、否定的な自己反応、適応的でない	自己評価を求める、方略や実践への帰属、積極的な自己反応、適応的

(Zimmerman, 1997, p. 6)

名古屋市立大学

目次

1 NCU LX・DXで何を実現するか
DXプラットフォーム と 教学IR・Learning Analytics

2 資質・能力と自己調整学習
内発的動機づけ・自己効力感を軸とするメタ認知

3 自己評価・成長実感アンケート
分析・可視化と学生・教員へのフィードバック

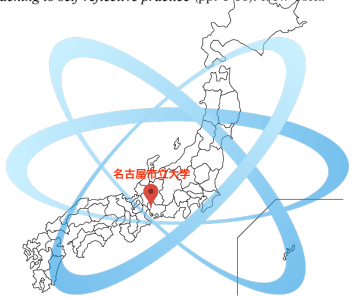
学生・教員へのフィードバック例

（情報量とは驚きの大きさ）

- 自律的な学修者育成（主に学生向け）
  - 「内発的動機づけ」×「成績」
    →学習それ自体に満足を求めるための行動が取れているか？
  - 「自己効力感」×「成績」
    →自分の行動によって望む結果が得られると考えて学習できているか？
  - 「成長実感」×「成績」
    →学修到達目標を達成できたという認識は、どの程度正確なのか？
- 資質・能力を身につける教育の確立（主に教員向け）
  - 成長実感×成績
    →あらかじめ学生に示されている成績評価基準・方法は客観的か？
  - アクティブラーニング×深い関与
    →学生の深い関与を導く「主体的・対話的で深い学び」は実践されているか？
  - 自己効力感×内発的動機づけ
    →学位プログラム全体と授業は、自律的学修者の育成に貢献できているか？

名古屋市立大学

参考文献

- 中央教育審議会大学分科会 (2020).『教学マネジメント指針』文部科学省.
- 石井英真 (2014).「活用する力を評価するパフォーマンス評価」『看護教育』Aug. Vol.55 No.8, 684-691.
- 加藤かおり (2013).「学習者中心の大学教育における学習をどう捉えるか―深いアプローチを手掛かりに―」『大学教育学会誌』第35巻第1号, 57-61.
- 松下佳代 (2013).「学習成果の評価の方法―パフォーマンス評価を中心に―」平成25年度（第16回）弘前大学FDワークショップ, 11.
- OECD. (2016). *Global competency for an inclusive world.* (http://globalcitizen.nctu.edu.tw/wp-content/uploads/2016/12/2.-Global-competency-for-an-inclusive-world.pdf) (2020年11月26日)
- Zimmerman, B. J., (1997). Developing self-fulfilling cycles of academic regulation: An analysis of exemplary instructional models. In B. J. Zimmerman & D. H. Schunk (Eds), *Self-regulated learning: From teaching to self-reflective practice* (pp. 1-16). New York: Guilford Publications.

多様なディシプリンによる教育を展開されている
全国の国公私立大学のみなさまと
具体的な知見の共有に努め、
また本学の実践例は、シンポジウム等を開催して
積極的に公開して参ります。
今後ともご理解・ご支援を賜りますよう
お願い申し上げます。
ご静聴ありがとうございました。